

科目名	看護研究方法論 Research methodology for nursing
授業形態	講義
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春AB学期 水曜3・4時限
実施場所	共同利用棟B107
単位数	2単位
担当教員名	柴山大賀 Shibayama Taiga 水野道代 Mizuno Michiyo 浅野美礼 Asano Yoshihiro 大宮朋子 Omiya Tomoko 川野亜津子 Kawano Atsuko 涌水理恵 Wakimizu Rie 福澤利江子 Fukuzawa Rieko Togoobaatar Ganchimeg
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	なし
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めませんが、下記に連絡・調整したうえで訪問すること taiga@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1) 看護の知識を生成するために必要な質の高い研究を行うための研究方法を理解できる。 (2) 実際の研究を題材とした討論を通じて、看護を科学的に探究するための実践的な方法論を理解できる。
他の授業科目との関連	応用看護科学、応用統計学、看護科学特論、看護科学演習Ⅰ、看護科学演習Ⅱ、看護科学研究
履修条件	なし
授業概要	看護を科学的に探究するための方法論を理解し、実際の研究を題材とした討論を通じて自立した研究者として看護の実践研究を企画・実施・評価できる能力を養う。
キーワード	研究方法、看護科学
授業計画	(4月10日) 研究疑問の明確化(柴山大賀) (4月17日) 研究の枠組みの構成方法(柴山大賀) (4月24日) 関連文献の検討方法(柴山大賀) (5月08日) 予備日 (5月15日) 研究デザインとバイアス(水野道代) (5月22日) 測定の妥当性と信頼性、および物理的・生理学的な測定方法(浅野美礼) (5月29日) 質問紙の構成方法、尺度翻訳、文化的改変、プレテストの方法(福澤利江子) (6月05日) ランダム化比較対照試験と前後比較試験(涌水理恵) (6月12日) 横断調査と縦断調査(川野亜津子) (6月19日) システマティックレビュー・メタアナリシスの実際(Togoobaatar Ganchimeg、福澤利江子) (6月26日) グラウンデッドセオリー、および混合研究法の実際(大宮朋子)
学修時間の割り当て及び授業 外における学修方法	授業の準備として、参考図書を中心に、関連する内容を自主的に調べておき、質問事項を明確にしてから参加する。 また、事前に課題が課された場合は、必ずそれに取り組む。授業後は復習をする。
成績評価方法	最終評価が60点以上をもって単位を認定する。 <評価方法と評価配分> 各回(2コマ分)の達成度を10点満点で判定し、10回分の総合点を最終評価とする。 達成度の内訳は、授業への参加状況 40%、レポート 60%とする。 <評価基準> 各回の授業への参加状況は4点満点とする。 1. 看護研究の方法論に関して自らの疑問や意見を述べるができる。 2. 看護研究の方法論に関する他の学生の意見を理解し、討論に主体的に参加することができる。 上記1と2を評価基準とし、それぞれを(2=よくできる, 1=できる, 0=できない or 欠席)で評価し、合計で算出する。 各回でレポートを課し、6点満点とする。 レポート課題は各担当教員から授業中あるいはmanaba上で通知する。 提出はmanaba上にWordファイルを添付する(様式と枚数は自由)。 提出期限は次回の授業までとする(最終回は1週間以内)。
教材・参考文献・配布資料等	Grove, S. K., Burns, N., & Gray, J. R. (2015). バーンズ&グロープ看護研究入門: 評価・統合・エビデンスの生成(黒田裕子, 中木高夫, 逸見功, 監訳). 東京: エルゼビア・ジャパン. ポーリット, D.F. & ベック, C.T. (2010). 看護研究 原理と方法(第2版)(近藤潤子, 監訳). 東京: 医学書院. 柴山の担当する3回分は「バーンズ&グロープ看護研究入門」の第5章～第8章を教材とする。
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	遅刻、途中退出、やむを得ず欠席する場合の扱いについては、受講生の状況を鑑みて決定する。 前期課程レベルの研究方法について復習を希望する者には、本科目に加えて前期課程「看護学研究法」の聴講を薦